

7月の2度に及ぶ豪雨災害を受けて

7月9日からの豪雨災害

7月9日の未明から降り続いた大雨により、同日の午前8時21分に大雨警報、さらに8時39分に土砂災害警報情報が発表され、町長を本部長とする「最上町災害対策本部」を、同日午前8時45分に設置しました。総降雨量は、降り始めとなった7月6日の午後4時から11日の午後3時までの間に、向町観測所で318.5mmを記録しました。特に9日の午前8時台の1時間は、同所の観測史上最大となる61mmの降雨量を記録しました。

町の災害対策本部では、9日の午前9時45分に町内7か所に「避難指示」を発令し、中央公民館と瀬見公民館の2施設に避難所を開設し、総勢184人の方々が避難されました。また、翌10日には町内全域に「高齢者等避難」を発令しました。

7月19日時点で家屋の床下浸水が9棟、河川や道路の冠水や護岸崩落等が46か所、農地や農業用施設では123か所の被害が確認されました。

7月25日からの豪雨災害

7月25日は午前中から猛烈な大雨に見舞われ、午後0時3分に大雨警報、1時50分には土砂災害警報が立て続けに発令されました。同日から翌日までの48時間雨量は、瀬見観測所で396mm、向町観測所では334.5mmと観測史上最大を記録しました。

町の災害対策本部では、25日の午後1時55分に町内9地区に「避難指示」を発令し、中央公民館と瀬見公民館、大堀地区公民館の3施設に避難所を開設。その後、赤倉公民館(旧赤倉小)を追加し、計48人が避難されました。

28日時点で確認されている被害状況は、家屋での床下床上浸水や土砂の流入が16棟、河川や道路の冠水や護岸崩落、農地や農業用施設への被害については現在確認中ですが、前回(7月9日)の災害よりさらに大きくなることは確実です。

国道47号では鶴杉・瀬見間と瀬見・舟形町間で土砂崩れ等が発生し、7月25日から全面通行止めとなりました。翌26日には鶴杉・瀬見間、29日には舟形町経由による通行が可能となり、更に通行止めとなっておりました亀割バイパスも、31日より片側交互通行により新庄方面への通行が可能となりました。県道28号尾花沢最上線(山刀伐峠)でも25日から全面通行止めとなりましたが、翌26日の夜に通行が可能となりました。さらに、元瀬見スキー場の斜面の一部が崩落し、町道と付近の温泉旅館の敷地内に土砂が流入するなどの被害がありました。



▲元瀬見温泉スキー場の跡地の法面から大量の土砂が流出しました

迅速なる復旧にむけて

ひと月の間で2度に及ぶ記録的な豪雨災害というのは、近年では例がなく、その分、被害も甚大な状況となっています。今回の災害では、幸い人的な被害がなかったことに安堵しておりますが、被害に遭われた皆様は、大変な状況のなかで復旧作業に向かわれていると思われまます。また、豪雨のなかでの安全確保にむけたパトロールや見守り、さらには土砂の撤去作業等の活動に当たられた町の消防団はじめ、建設業部会青年部等、大勢の皆様のご協力で深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

町としましても、引き続き、正確で詳細な被害状況の把握に努めると共に、国や県に対して支援の働きかけを積極的に行いながら、一日も早い復旧にむけて全力で取り組んでまいりますので、皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。

令和6年8月1日

最上町長 高橋 重美